

シリーズ 飯山を語る No.2

# 飯山の魅力

信州大学人文学部 教授

## 笹本 正治



「飯山の魅力は」と問われると困ってしまいます。私は飯山の良いところを『飯山風土記』（飯山市振興公社）でいっぱい取り上げました。鍋倉のブナをはじめとする自然、集落ごとに行われている祭り、田園風景など、それぞれとても素敵です。自然の風景や文化などは全国で主張していませんから、それを越える魅力が飯山にはあるはずですよ。

「でもない景色があっても、その良さに気がつき、それを守ろうとする人が

いなくては、自然は認識できません。どんな素晴らしい祭りがあっても、それをいいと思えば、伝えている人がいないと、もつと良くない。飯山の素晴らしさは、人のために尽くすことが、回り回って自分を豊かにしてくれるという当たり前のことを、気付かせてくれる人がいっぱいいる点にあります。

「やもすれば、私たちは人生を同じ尺度で測ろうとしてきました。例えば、豊かさをお金での収入や所有する物の量を基準にしてきました。飯山に来ると、それが簡単に突き崩されます。腹藏なく語れる仲間がいて、おいしい空気を吸って、安全な食物をとり、四季を実感できる飯山の生活は、孤立して腹を探り合いな

臭うような空気を吸い、どんな農業が入っているのかもわからない食物をとり、季節の移ろいもわからない都会の生活からすると、大変うらやましく感じられます。

「都会の論理でいったら、飯山は雪深く、お金になる仕事もなく、大きな遊園地や娯楽施設もないですが、飯山ではそんなくだらなことを気にとめず、自然環境と周囲の人の絆の良さを大事にし、主体的に生きている人が多いです。一人一人が自らの価値観で、他人を尊重しながら社会生活をするのが、飯山人の魅力なのです。

「私は皆さんに接触するたびに豊かな気持ちになり、この豊饒な世界に再び足を運びたいになります。

### 文化財

#### ひとくちメモ

飯山の宝物を探る その2

### 飯山のまつり

市内各地には、伝統的なまつりがたくさんあります。今回は9月に開催される主なまつりをご紹介します。

#### ■奈良沢の天狗舞

無形民俗文化財で、毎年秋分の日前後の休日に開催されます。修験者の山伏姿であり、猿田彦である大天狗が豪快に大松明を振り回し、村中の災厄を払い、村人の安全を祈願します。

#### ■秋津の祭り屋台

市有形文化財で、毎年9月中旬に開催されます。運2台、静間3台の計5台の屋台が五穀豊穡・地域繁栄・住民安全等を祈願しながら村内を練り歩き、各神社に奉納されます。屋台は江戸末期〜明治にかけて造られたもので、精巧な彫刻が施されています。

#### ■五束の太々神楽



▽小沼のさつまおどり

毎年9月23日に開催されます。室町時代から始まったとされる伝統的なまつりで、5月上旬の祈年祭と、9月23日の例祭日の年2回、神楽を通じて神に奉納されます。

#### ■小沼のさつまおどり

市無形民俗文化財で、8月15・16日の旧盆の夜と9月中旬の小沼神社の祭礼の日に踊られます。櫓歌と踊り歌の、歌詞とテンポが全く別という、古い形式が残る格調高い踊りです。区民の余興や楽しみとしてだけでなく、神に奉納する踊りとして今に伝えられています。

### 参加者募集

総合学習センター フェスティバル 歴史講演会

#### 「山本勘助をめぐって」

◇とき 10月21日(土) 午前10時

◇場所 飯山市公民館 講堂

◇講師 信州大学人文学部 笹本正治 教授

#### 寺町いよいよ 体験クラブ

◇金箔押し教室 10月7日(土) 定員15名

◇蒔絵教室 10月21日(土) 定員15名

◇彫金教室 10月28日・11月4日(土) 定員15名

◇時間 9時半〜11時

◇対象 小4〜中学生

◇材料費 各500円

◇場所 ふるさと館

◇申込み 飯山公民館 ☎62-33342

### いよいよ文化財めぐり開催

8月12日(土)「飯山の宝物発見」をテーマとし、講師に長野県文化財保護指導委員の長瀬哲先生をお迎えし、市内文化財めぐりを開催しました。



講師の先生の案内で飯山城跡を始め、五束の若宮神社、小菅神社、北竜湖、桑名川の白山神社、正受庵、そして法伝寺古墳と、主に国・県指定の文化財を中心に市内の代表的な文化財を訪ねました。普段は非公開となっている文化財も今回特別に見ることができ、多方向から飯山の文化・歴史を学ぶ、お盆前の貴重な体

### 縄文土器作り開催

ふるさと館と市公民館の共催で、小中学生を対象とする縄文土器作り教室を開催しました。

講師に、ふるさと館市民学芸員である、田村規城先生をお迎えし、7月15日に土器作りを、9月2日に土器の野焼きを実施しました。参加した子どもたちは皆、土器作り初体験であり、田村先生から焼いたときに割れないよう「空気を入れな

い」、「厚さを均等に」との指導を受けながら、真剣に土器を作り、周囲に縄文土器の特徴のひとつである、縄や竹でそれぞれ文様を付けてきました。



△縄文土器作りの達人 田村先生

野焼きの日には、十分に



△焼き上がった土器とともに

残念ながら、いくつか割れてしまった土器もあり、子どもたちは、何も無かった時代に大きな土器を作っていた縄文人の偉大さを目の当たりにしていました。皆、本物顔負けの縄文土器を作ることができ、貴重な体験となりました。

来年も開催予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください。

### 寄贈資料一覧

6月〜8月

- ◇森 順次 様  
オルガン、蚊帳、こたつ、やぐらの金網、そろばん、十能、火箸、防災頭巾、雑囊
  - ◇村松 正志 様  
自在鉤、鉄瓶、篩、焙烙、御膳収納箱
  - ◇山田 武夫 様  
綿の種取り機、毛糸紡ぎ機
  - ◇北誠商事(株) 様  
箱階段(旧高橋邸所有)
  - ◇東 茂 様  
茶碗等陶器類、木器類、雛人形
- ※貴重なふるさと資料として保存・活用を図ります。

